第１学年国語科学習指導案

１　単元名　　こえにだしてよもう　「くじらぐも」

２　指導観

児童の実態

○　本学級の児童は，「みんなでよもう　大きなかぶ」で，叙述と挿し絵を手がかりに人物の様子や気持ちを読み取ったり，一行空きの部分で人物がしたことを想像したりしながら，物語を楽しく読み進める学習をしている。場面や言葉が繰り返されて展開するあらすじをとらえながら，書いてある通りに音読したり，視写したり，登場人物になって対話したりする力が少しずつ育ってきている。しかしながら，叙述をもとに想像した様子や気持ちを自分の言葉で表現したり，様子や気持ちが分かるように音読したりする力は，まだ十分でない。

単元について

○　本単元は，くじらぐもと子どもたちのしたことを順に追いながら，仲良くなっていく様子を，挿し絵と叙述をもとに想像豊かに読み取る力を育てようとするものでる。同じ１年生の子どもたちとくじらぐもが，体育の授業時間という身近な世界から空という幻想の世界へと舞台を変えて繰り広げる話の展開のため，子どもたちが楽しく想像を広げながら読み進めることができると思われる。また，本教材の次のような特質を生かすことで，１年生のめざす力である「内容の大体（あらすじ）を捉える力」「想像を広げながら読む力」を身につけさせることが期待できる。

①　順序が分かりやすく描かれた挿し絵を手がかりに，言葉と対応させていくことで，物語の順序を正しく捉えながら，場面や人物の様子を想像豊かに読み進めていくことができる。

②　会話文に気をつけることで，楽しく人物の気持ちを読み取ることができる

。③　「～が」「～は」「～も」という主語となる言葉を手がかりに人物がしたことをつかめる。

④　「もっと高く。もっとたかく。」「どこまでもどこまでも」などの言葉の繰り返しに気をつけることで，様子や気持ちの高まりが読み取りやすい。

⑤　ひとまとまりの語や文として，はっきりとした発音で音読することが行いやすい。

指導にあたって

○　指導にあたっては，単元名の「こえにだしてよもう」から，音読活動を中心に読みを進めながら，挿し絵や叙述をもとに想像した様子や気持ちを家の人に書いて伝えることで，話のあらすじを自分の言葉でまとめさせる力をつけていきたい。

読みのめあてを作る段階では，まず題名と冒頭から，くじらぐものしたことを時間の順序に沿って捉えることが出来るめあてを生み出させる。

次に全文を繰り返し読んだ後，読みのめあてに沿って自分なりに読み取ったことを書かせるが，一部分だけを捉えたあらすじであったり，印象に残ったいることだけでまとめている実態が考えられる。そこで，挿し絵を使ってくじらぐもがしたことを発表させながら，子どもたちがしたことと対応させてあらすじを整理させる。また，場面毎に疑問に思うこと等を出し合ってはてなカードを位置づけ，読み深める必要感をもたせることで，これからの学習計画を立てていく。

場面毎に読み深める段階では，１時間の授業の展開を，①読みのめあて　②場面の音読　③くじらぐも（子どもたち）がしたことに線を引く，大事な言葉の視写をする，④音読を効果的に行いながら，挿し絵や叙述をもとにくじらぐもと子どもたちの様子や気持ちを想像する，　⑤今日の場面の大体を家の人に伝える文章を書いてまとめる，という大きく５つの活動で行わせることで，児童に読みの学習の方法を経験さえ，見通しをもって学習を進めていく素地を培う。特に，⑤の本時の学習のまとめでは，今日の場面の大体がまとめられるよう，場面の最後の部分の人物の行動になるまでの過程を問うような書き出しの文章を与え，書きまとめさせるようにする。

読みをまとめる段階では，１年２組の子どもたちが家に帰って，家の人に今日の４時間目のことを話すという設定で続き話を作ることで，この物語のあらすじをまとめさせるとともに，このお話で一番好きなところを紹介し合うことで交流を深めたい。読みを広げる段階では，他の空を飛ぶ話の本を紹介し，読みつなぐ経験を味わわせることで，楽しい読書活動へと広げていきたい。

3　目　標

◎　挿し絵と言葉（会話文や繰り返しの言葉，助詞の働きなど）をもとに，くじらぐもと子どもたちがしたことを中心にあらすじを捉えながら，場面の様子を想像豊かに読み取ることができる。

○　くじらぐもと子どもたちが仲良くなっていく様子を読み取り，自分の言葉であらすじを書きまとめることができる。

○　声の大きさや強さを工夫しながら，はっきりした声で音読することができる。

4　指導計画（10時間）

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準
読みのめあて	1/10	1　題名と冒頭から，くじらぐもの様子を読み取り，読みのめあてを生み出す。 ○　話の設定を捉え，学習のめあてをつかむこと。	※　単元名から，学習の仕方を話し合い，気持ちや様子の読み取りを音読で表すことを知らせる。	○　言葉の違いからくじらぐもの様子を読み取り，はっきりとした声で音読している。（発言，音読）
学習計画	2/10 3/10	2　読みのめあてをもとに全文を通読し，くじらぐもが子どもたちとしたことを整理し，分からないことを出し合う。 ○　挿し絵を手がかりに，話の大体をつかみ，読み深めていく学習計画を立てること。 ○　新出漢字の練習をすること。	※　挿し絵を並べ，くじらぐものしたことをたどって，話の大体を捉えさせる。 ※　分からないことを？カードとして，学習計画に位置づける。	○　意欲的に音読している。（音読） ○　挿絵をもとに，くじらぐもがしたことを順序よくつかんでいる。（発言，プリント）
	4/10	3　くじらぐもと子どもたちの様子や気持ちを場面毎に読み深める。 (1)　体操をする子どもたちとまねをするくじらぐもの様子を読み深める。 ○　叙述（助詞）と挿し絵に着目して読むこと。	※　「が」「も」から，子どもたちとくじらぐものしたことを対応させて考えさせる。	○　まねをするわけとそれを見た子どもたちの様子を書きまとめている。（プリント）

こえにだしてよもう

くじらぐも　（題名）　　なかがわりえこ　さく

※挿し絵とつないで

四じかんめのことです。

※人物，時，場所をきちんと押さえる。

一ねん二くみの子どもたちがたいそうをしていると，

空に，大きなくじらが**あらわれました。**

※「きました」との比較　・大きなものが・突然

まっしろいくものくじらです。　・何か起こりそうだ

※「しろい」との比較

（読みのめあて）　くじらぐもは，子どもたちとどんなことをするでしょう。

「一，二，三，四。」

くじらもたいそうをはじめました。　←――　子どもたちがたいそうをしてると，

のびたり，ちぢんだり，しんこきゅうも

※深呼吸は準備体操の最後

くものくじらも，空をまわりました。←――みんながかけあしでうんどうじょうをまわると

くじらもとまりました。　←――せんせいが～　みんながとまったので

くじらも，空でまわれ右を←――　せんせいが～　みんながまわれ右をしたので

「あのくじらは，きっとがっこうがすきなんだね。」
※まねをしたわけを考えさせる。

読み深め	5/10	(2)　くじらぐもに呼びかける子どもたちと，子どもたちを空に誘うくじらぐもの様子を読み深める。 ○　会話文と挿し絵に着目して読むこと。	※　叙述の違いと「ここへ」の指すものの違いを考えさせる。	○ 張り切ったわけをくじらぐもと子どもたちの様子をもとに書きまとめている。（プリント）

「おういい。」　　「おういい。」
※下へ　　と，くじらもこたえました。　　※上へ　　とよました。
※まねではなく，返事をしたということ
「ここへおいでよう。」　←　「ここへおいでよう。」
※空へ　　と，くじらもさそいました。　　※運動場へ　　みんながさそうと，
※どんな気持ちで誘ったのか，考えさせる。
「よしきた。くものくじらにとびのろう。」

（本時）	6/10	(3)　くじらぐもにとびのろうとする子どもたちと，応援するくじらぐもの様子を読み深める。 ○　会話文の繰り返しに着目して読むこと。	※　気持ちの高まりを「天までとどけ，一，二，三。」「もっとたかく。もっとたかく。」の音読に表現させる。	○ くじらぐもにとびのれたわけを，気持ちの高まりとつないで書きまとめている。（プリント）

「天までとどけ，一，二，三。」
「もっとたかく。もっとたかく。」　　やっと，三十センチぐらい
と，くじらがおうえんしました。
↓
※繰り返しながら，気持ちが高まっている。（音読の工夫）
「天までとどけ，一，二，三。」
「もっとたかく。もっとたかく。」　　こんどは，五十センチぐらい
↓
「天までとどけ，一，二，三。」
そのときです。いきなり，かぜが，みんなを空へふきとばしました。
せんせいと子どもたちは，手をつないだままくものくじらにのっていました。
※不思議なことがおこったわけを子どもたちとくじらぐもの思いとつないで考えさせる。

	7/10	(4)　空を泳ぐくじらぐもと子どもたちの様子を読み深める。 ○　挿し絵や叙述をもとに，想像すること。	※　空から見えるものや雲の上でしたことなど書かれていないことを，挿し絵や叙述をもとに想像させる。	○　読んでいる。（プリント）

「さあ，およぐぞ。」
くじらは，あおいあおい空のなかを，げんきいっぱいすすんでいきました。
うみのほうへ，　くじらぐも　子どもたち
むらのほうへ，
まちのほうへ。
※話したことや動作など想像をふくらませて
※挿し絵を使って，動作や声に表しながら
みんなは，うたをうたいました。
空は，どこまでもどこまでもつづきます。

		※くじらぐもと子どもたちの気持ちのつながり		
	8/10	(5)　さよならをするくじらぐもと子どもたちの様子を読み深める。 ○　これまでの場面をつないで，叙述や挿し絵に着目して読むこと。	※　元気よく帰って行くくじらぐもの気持ちや子どもたちの気持ちを考えさせる。	○　満足感をこれまでの場面とつないで書きまとめている。（プリント）
		「おや，もうおひるだ。」せんせいが，～ 「では，かえろう。」くじらは，まわれ右をしました。 くじらぐもは，ジャングルジムの上に，みんなをおろしました。 「さようなら。」※子どもたちの気持ち 「さようなら。」※くじらぐもの気持ち くものくじらは，また，げんきよく，あおい空の中へかえっていきました。 ※小さくなって見えなくなった ※元気よく帰って行ったわけを，これまでの場面とつないで考えさせる。		
読みのまとめ	9/10	4　読みのめあてにもどって，くじらぐもが子どもたちとどんなことをしたのかまとめ，子どもたちが家に帰っておうちの人に話をしたことを続き話として書く。 ○　読み取ったことを想像しながら，音読をすること。 ○　続き話を書いて，あらすじをまとめること。	※「今日の 4 時間目にね，」という書き出しを与えて，書かせる。	○　はっきりとした声で，様子がわかりように音読している。（音読） ○　お話のあらすじを自分の言葉でまとめてている。（プリント）
読み広げ	10/10 課外	5　自分の好きな場面を紹介し合い，「空を飛ぶお話」の本へと，読み広げる。 ○　一番好きな場面の交流をすること。 ○「空を飛ぶ」という読みつなぎ方で，読書に広げること。	※　空を飛ぶ話のブックトークを聞かせ，興味を持った本を選んで読み広げさせる。	○　自分の好きな場面を紹介している。（発表） ○　意欲的に本を読んでいる。（読書の様子，プリント）
		＜空を飛ぶお話リスト＞ ・「そらをとんだたまごやき」　落合恵子　文　和田誠　絵　クレヨンハウス ・「ぐりとぐらとくるりくら」なかがわりえこ　文　やまわきゆりこ　絵　福音館書店 ・「そらをとんだくじら」アルカディオ・ロバト　作・絵　講談社 ・「とべ　へんてこどり」川北亮司　文　田畑精一　絵　童心社 ・「とぶ」　谷川俊太郎　作　和田誠　画　福音館書店 ・「鳥おじさん」　ウィミーン・ミン　作・絵　徳間書店		

5　本　時　（６／１０）　　平成２１年１０月７日（水）５校時　　１年教室

6　本時の目標

○　会話文の繰り返しに着目しながら，くじらぐもにとびのろうとする子どもたちとそれを応援するくじらぐもの様子を想像豊かに読み取り，自分の言葉で話し合ったり，書きまとめたりすることができる。

○　子どもたちとくじらぐもの思いの高まりを声の大きさや強さで工夫して表し，はっきりした声で音読することができる。

7　本時指導の考え方

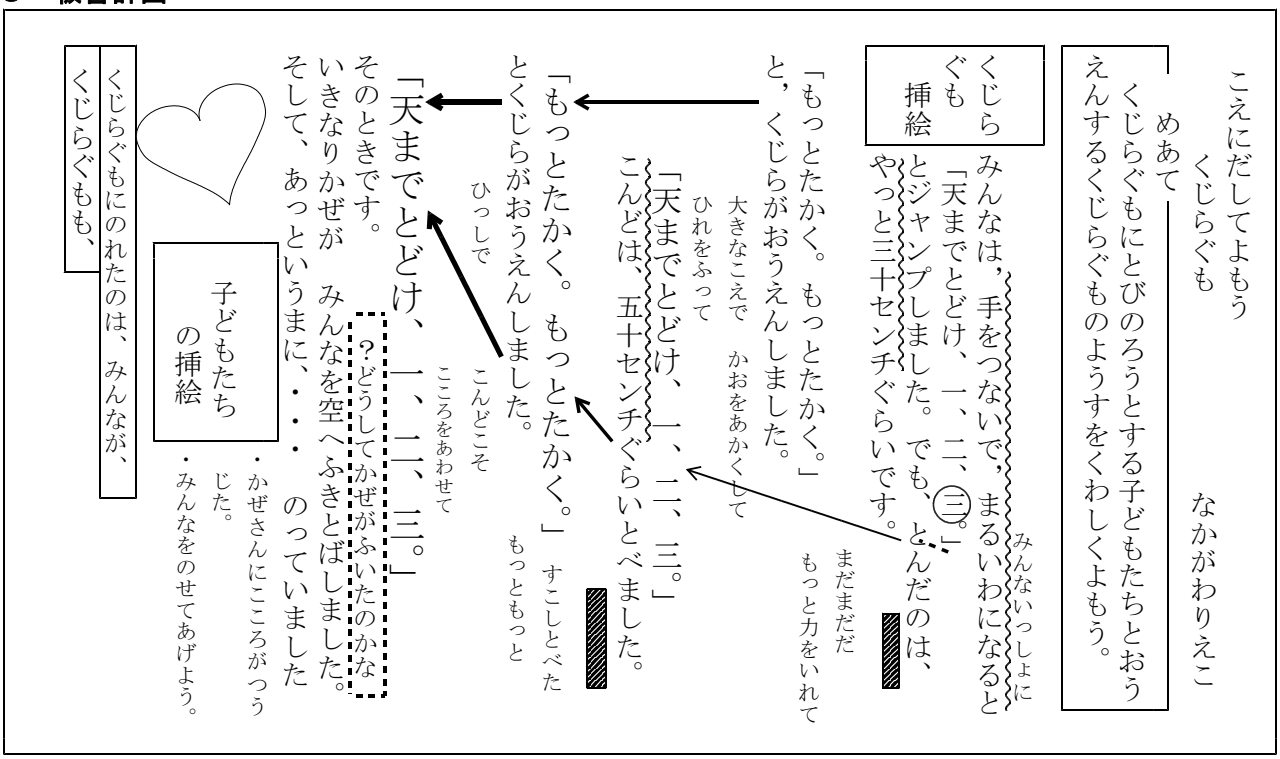
本時は，くもにとびのろうと手をつないでみんなでジャンプする子どもたちと，それを応援するくじらぐもの気持ちの高まりを，「天までとどけ，一，二，三。」や「もっとたかく。もっとたかく。」の会話文の繰り返しに着目して読み取らせ，音読で表現させることをねらいとしている。

そこで，まず，くじらぐもがしたことと子どもたちがしたことを確かめるために，くじらぐもがしたことにサイドラインを引かせ，二度も応援している文があることに気付かせる。次に，一回目の応援の場面を書いた文章を提示し，子どもたちやくじらぐもの会話文の読み方を考えさせたり，応援したりしているくじらぐもの様子を前の場面の挿し絵をもとに想像させたりする。さらに，二回目の応援の場面を書いた文章と比べさせ，同じ会話文だが同じ読み方でいいかを，「こんどは五十センチとべました。」という文から考えさせる。前は「やっと三十センチ」だったことから少し高く飛べるようになっていること，それでも空の高さからするとまだまだ届かないことから，もっと飛びたい，もっと高く飛んでほしいという子どもたちとくじらぐもの気持ちの高まりに気付かせ，音読の工夫へとつなぎたい。

板書の際には，①くじらぐもと子どもたちがしたことを色を分けて貼る，②気持ちの高まりが分かるように，繰り返し出てくる会話文の字の大きさをだんだん大きくする，③どうして風が吹いたのかなという子どもたちから出ていた？カードを取り上げ，くじらぐもと子どもたちの気持ちの高まりとつないで考えられるよう，板書を構造化して分かりやすくする，等の工夫を行う。また，これまでの場面で少しずつ仲良くなっていく関係をハートの形にして表していたが，この場面では，更に大きくなってることに気付かせる。

最後に，「本時で詳しくなったお話をおうちの人に伝える」という相手意識をもたせて，本時場面のあらすじを自分の言葉で書きまとめさせる。その際，「雲の上に飛び乗ることができたのは，子どもたちが・・・　くじらぐもも　・・・」という書き出しを与え，本場面のあらすじを書きまとめることができるようにする。

8　板書計画



９　展　開

学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準
1　本時学習について話し合う。 (1)　前の場面と本時場面の挿し絵のつながりについて話し合い，本時場面を音読する。 ○　前時学習の想起と本時学習の見通しをもつこと。		
めあて くじらぐもにとびのろうとする子どもたちと，おうえんするくじらぐものようすをくわしくよもう。		
(2)　くじらぐもがしたことと子どもたちがしたことを確かめ，会話文を視写する。 ○　本時に着目させる大切な言葉をおさえること。 「天までとどけ，一，二，三。」 「もっとたかく。もっとたかく。」	※　くじらぐもがしたことに線を引き，こどもたちがしたことととの　　をつけさせる。	○　主語に着目して線を引き正しく視写している。 （プリント）
2　くじらぐもにとびのろうとする子どもたちと，応援するくじらぐものようすについて話し合う。 (1)　一回目のジャンプと応援の様子について話し合う。 ○　子どもたちとくじらぐもの会話文を言葉にして想像豊かに読むこと。 ・　手をつないでまるいわになったわけ。 ・　「天までとどけ，一，二，三。」の子どもたちの様子と音読の仕方。 ・　「もっとたかく。もっとたかく。」のくじらぐもの様子と音読の仕方。	※　くじらぐもがしたことと子どもたちがしたことを造　に色分けして書いておく。 ※　子どもたちとくじらぐもの様子を想像させ，動作化させる。	○くじらぐもと子どもたちの一生　　な様子を自分の言葉で話している。（発言）
(2)　繰り返しジャンプする様子と応援の様子について話し合う。 ○　言葉が繰り返される中で高まる人物の思いの高まりを読み取ること。	※　子どもたちの思いが高まっていることが分かるように一回目より大きな字で板書する。 ※　子どもたちの？カード「どうして不思議な風がふいたのか。」を取り上げ，人物の思いの高まりとつないで想像させる。	○気持ちの高まりがわかるように，音読している。 （音読の様子の　　）
3　話し合いでくわしく読み取ったことをもとに，本時場面のあらすじを家の人に伝える手　を書く。 ○　本時場面のあらすじを自分なりの言葉で書きまとめるとともに，読み方の確　をすること。	※　同じ言葉が繰り返し出てきたところは，気持ちが強くなっていたことを確かめる。 ※　「くじらぐもにとびのれたのは，子どもたちが・・くじらぐもも・・・」という書き出しを与える。	○子どもたちとくじらぐもの思いの高まりとつないで，くもにとびのれたわけを書いている。 （プリント分　）